

2024年1月31日

横浜市温暖化対策統括本部プロジェクト推進課

ヨコハマSDGsデザインセンター

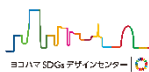
日揮ホールディングス株式会社

株式会社横浜赤レンガ

明日をひらく都市

OPEN X PIONEER

YOKOHAMA



高校生16名がSDGsを学び交流する「AIZU×YOKOHAMA 未来デザイン部」

横浜赤レンガ倉庫でワークショップを実施

イベントでのサステナブルな取り組みを体験し、横浜赤レンガ倉庫公式Xで発信

横浜市とヨコハマSDGsデザインセンター（以下、デザインセンター）、日揮ホールディングス株式会社（本社：横浜市、代表取締役会長CEO 佐藤 雅之（以下、日揮HD））、株式会社横浜赤レンガ（本社：横浜市、代表取締役 岩崎 求起（以下、横浜赤レンガ））は、デザインセンターが実施する横浜市と会津若松市の高校生がSDGsを学び交流する「AIZU×YOKOHAMA未来デザイン部 Winter Camp 2023 プログラム」を、2023年12月16日（土）に横浜赤レンガ倉庫で開催しました。

ワークショップは二部構成で行われ、第一部では横浜赤レンガが「笑う、サステナブル」をコンセプトに取り組むSDGsの施策や、横浜赤レンガも地元企業として参加している日揮HDが推進する「SAF（持続可能な航空燃料）」について学びました。

第二部では、4チームに分かれて「地域に、市民に、来街者にSDGsの輪の広げ方を考えよう」をテーマに、イベント会場「Christmas Market in 横浜赤レンガ倉庫」を活用したSNSによる情報発信を考案するワークショップを実施。4チームの投稿案は、実際に横浜赤レンガ倉庫公式Xアカウントでの投稿に繋がりました。本リリースでは、当日の様子をレポートでご紹介します。

今回の取り組みのように、将来の日本を担う若者たちに持続可能な社会に向けた問題解決への取り組みを学んでいただく機会の創出を、今後も官民一体となって進めてまいります。



実施概要

プログラム名：「AIZU×YOKOHAMA未来デザイン部 Winter Camp 2023 横浜赤レンガ倉庫編」

日時：2023年12月16日（土）15：00～18：30

参加者：横浜市内および会津若松市内の高校生 計16名

テーマ：持続可能な都市モデル構築に向けて、地域に、市民に、来街者にSDGsの輪の広げ方を考えよう！

アクティビティ：「横浜赤レンガ倉庫×SDGs」を学ぶ

～施設説明、取り組み（「笑う、サステナブル」、「SAF」等）紹介、ワークショップ～

「YOKOHAMA未来デザイン部」とは？

将来の日本を担うZ世代の若者たちに、「持続可能な社会の創造主」として地域課題や横浜の未来について考え、デザインしてもらおうと、2022年にヨコハマSDGsデザインセンターが立ち上げたのが始まり。第2期目となる2023年度は、公募で集まった横浜市内の高校生10名が参加しています。

横浜市は、推進する「Zero Carbon Yokohama」の取り組みとして、脱炭素社会の実現と地域活力の創出に向けた連携を強化するため、会津若松市と再生可能エネルギー資源に関する連携協定を2019年に締結。会津若松市に立地する「会津若松Windファーム」からの電力供給が2022年からスタートし、これをきっかけに風力発電所が立地する会津若松市湊地区との交流が始まりました。

ヨコハマSDGsデザインセンターは株式会社東海理化と連携し、互いのまちの未来を担う高校生が参加する「地方創生みらい交流プログラム with 会津若松市2023」を実施しました。同年夏には、YOKOHAMA未来デザイン部の高校生9名が会津若松市を訪れ、地元の高校生とともに再エネや空き家問題、農業の担い手不足などについて現地研修を行いました。

YOKOHAMA
未来デザイン部

<第一部：レクチャー>

横浜赤レンガ倉庫におけるSDGsの取り組みについて



- ・持続可能な社会を目指した歴史的建造物の活用
- ・笑う、サステナブル=思わず取り組みたくなるSDGs

横浜赤レンガ倉庫も参加する、日揮HDが推進する「SAF」の取り組みについて



- ・脱炭素におけるSAFの役割、重要性
- ・SAFの普及への課題とムーブメントの創出

<第二部：ワークショップ①>

「横浜赤レンガ倉庫がSDGsに取り組むことでの来街者や街への波及効果を考えよう！」



4チームに分かれて3つの軸から考察しました。

1. 人、来街者にどんな影響があるか
2. 街へはどんな影響があるか
3. 企業、自治体と連携するとどういった効果があるか



チームごとに考察内容を発表。各チームの意見を聞き、全体で理解を深めました。

<第二部：ワークショップ②>

「SDGsの取り組みをより多くの人に魅力的に届けるための発信方法を考えよう！」



下記2つをテーマに、4チームに分かれて横浜赤レンガ倉庫で実施されている「Christmas Market in 横浜赤レンガ倉庫」の会場内で写真を撮影しました。

1. 歴史的建造物を活用したクリスマスマーケットを魅力的に発信！
2. クリスマスマーケットでのSAFや脱プラスチックの取り組みを魅力的に発信！



撮った写真を活用して、横浜赤レンガ倉庫の公式Xアカウントにおける発信方法を考え、チームごとにプレゼンを実施。魅力的な内容は、後日実際にXにて投稿しました。

■発信案

【Aチーム】



🎄 Christmas Market in #横浜赤レンガ倉庫 🎄

会津×横浜 未来デザイン部が参上！

横浜赤レンガ倉庫で行っている取り組みを映える写真でアピール！

脱プラに向けた紙素材の使用や廃食用油から生まれる飛行機のエコな燃料、#SAF など、気づかないところに工夫がいっぱい！

横浜レンガ倉庫から世界は変わっていく！！

【Bチーム】



#横浜赤レンガ倉庫 のクリスマスマーケットで脱プラが進んでた👀

紙フォーク、木のスプーン・ナイフなど、カトラリーが非プラスチック製品での提供！

また、花材を使ったクリスマスインテリアのワークショップを発見🌟

手作りすることで楽しみながら #環境 に配慮！👏👏



【Cチーム】



みなさん、廃食用油はどのように処分していますか？

横浜赤レンガ倉庫のChristmas Marketで使用されている多くの油。その油をリユースして作られた飛行機の燃料をSAFといいます。

使用された食用油を捨てずに集めることであれば、CO2を削減することができます。

廃食用油で空の旅に行きませんか？

【Dチーム】



今こそ、サステナブルを実現する時!!

私たち未来デザイン部は、SDGsの目標を達成するために活動しています。

横浜赤レンガ倉庫でのクリスマスマーケットでは、楽しむだけでなく一人一人がSDGsに貢献することができます！

あなたもクリスマスマーケットでのSDGsを探してみは？

「笑う、サステナブル」について

株式会社横浜赤レンガは、「笑う、サステナブル」をコンセプトに、さまざまなサステナビリティ活動を推進しています。ちょっと楽しい、ちょっと面白い、ちょっとかっこいい無理をしない赤レンガらしい笑うサステナブルを提案します。地球環境と横浜赤レンガ倉庫に訪れるお客様が重要なステークホルダーであると認識し、事業活動を通じて持続可能な社会の実現を目指します。



サステナビリティの4つの重点項目（マテリアリティ）

- ① 地域を活性化すると、街が笑う
- ② 集う人が協力し合うと、地球が笑う
- ③ テクノロジーを活用すると、未来が笑う
- ④ 働き方を変えると、人が笑う

「SAF」について

SAF (Sustainable Aviation Fuel) は、廃食用油などを原料とする航空燃料として、従来の航空燃料と比較しCO2排出量を大幅に削減することが可能なエネルギーです。航空機は自動車などと違い電気や水素などの燃料では代替しにくいことからSAFの利用によるCO2排出削減が世界で求められています。

日本では、国土交通省が2030年時点で国内航空会社による燃料使用量の10%をSAFに置き換える目標を掲げており、さらに2050年には、カーボンニュートラルにすることを目指しています。その実現に向け、国産SAFの原料である廃食用油の安定的な調達が課題となっています。一方でSAFの原料である廃食用油は、年間およそ10万トンが海外に輸出されているといわれており、輸送によりCO2が排出されるだけでなく、国産SAF製造のための貴重な原料流出につながっています。

横浜赤レンガでは、横浜赤レンガ倉庫の館内店舗や主催イベントの会場における廃食用油を、国産の持続可能な航空燃料SAF製造の原料として供給することで、資源の有効活用を通じて気候変動対策への貢献を目指した、循環型社会の実現のために相互に協力する基本合意書を2023年9月13日付で締結しました。大規模イベントで発生する廃食用油を継続的にSAFに利用していく取り組みは国内で初めてとなります。

■ Fry to Fly Projectとは

Fry to Fly Projectは、国内資源循環による脱炭素社会実現に向けて、2023年4月に活動を開始したプロジェクトです。2023年8月末時点で、49の企業・自治体・団体が賛同しており、個人や自治体、企業がSAFの原料となる、家庭や飲食店など身近なところで発生する廃食用油の提供や取り組みの周知・発信を通じて、日本国内における資源循環の促進に直接参加することのできる場です。

Fry to Fly Projectでは、家庭や店舗等から排出される廃食用油の収集を促進し、さらに自治体との連携により廃食用油のSAFへの活用に関する教育活動を実施するなど、日本国内において脱炭素化に向けた資源循環の促進に積極的に参加できる機会の創出を目指しています。

